

『自助社会を終わらせる—新たな社会的包摂のための提言』

「コロナ危機は自由民主主義を変えたのか」再考

山崎望(駒澤大学)

1 新型コロナパンデミックという危機

- ・グローバルリスク(U.Beck)としての新型コロナパンデミック
 - ➡時間的／空間的なバリアを越えてしまう...
- ・国民社会を取り囲む境界線
 - 安全保障から社会保障まで
 - butパンデミック以前から形骸化が進行

2 新型コロナパンデミック時代の境界線(1)

①新自由主義

➡経済的自立を個人に要請

自立度が高い人／低い人の分断(自己責任、社会の分断)

②ポピュリズム

➡われわれ人民＝道徳的な存在＝友

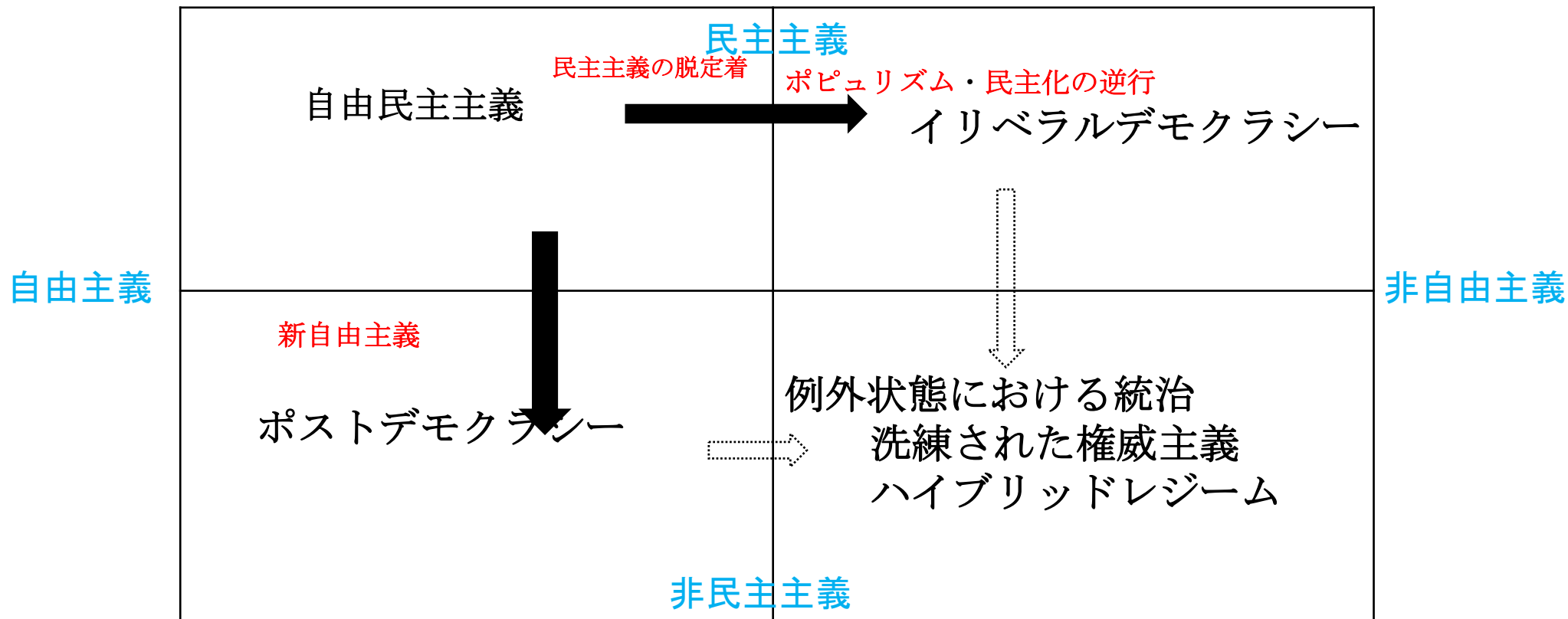
／他者(専門家、移民など...)＝道徳にもとる存在＝敵(「自粛警察」)

③例外状態における統治・権威主義的統治

➡自由や民主主義の(一部)停止、行政からの一方的指示

3 自由民主主義の危機？

自由民主主義の分解と権威主義への移行？



4 新型コロナパンデミック時代の境界線(2)

①国家への期待

安全保障／社会保障の最大の担い手

(例)「アメリカ第一主義」「コントロールを取り戻す」など

➡ワクチンナショナリズム

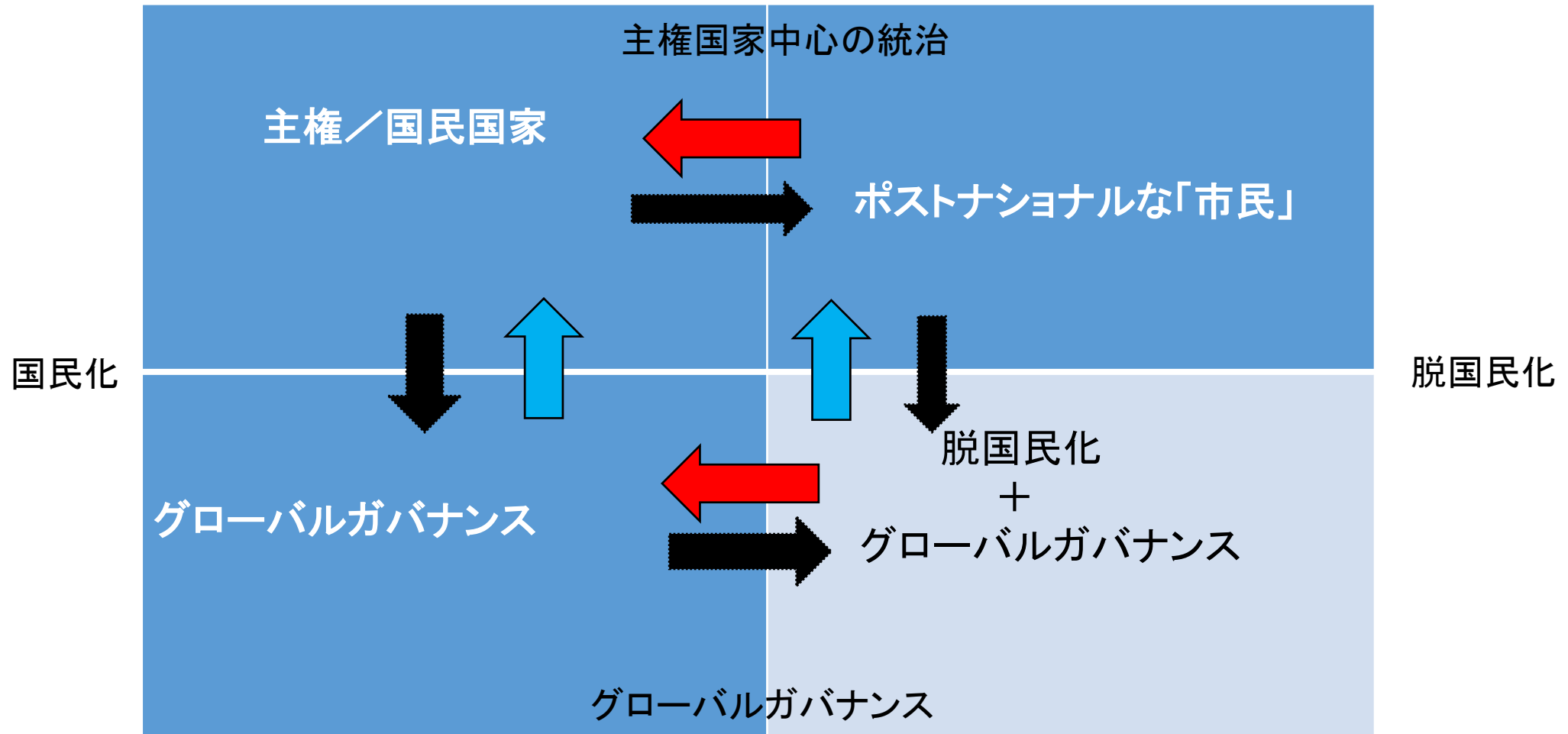
②レイシズム

国民社会の形骸化

➡国民内で人種(race)や民族に基づく「国民の純化」へ

(例)少数民族の権利制限や外国人排斥との結合

国民国家の分解と「国民の純化・主権の回復」



5 三つの提言

- ①新型コロナパンデミックは「境界線を無効にする」性質を持つ
 - ➡自然に思ってきた境界線は自明のものではない
- ②各人の境遇に応じた社会的包摂が必要
 - ➡既存の境界線の狭間に落ち込む人々が存在
- ③社会的包摂の境界線は、人々によって合意される必要がある
 - ➡様々なタイプの民主主義の必要性